

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 鴨生田 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

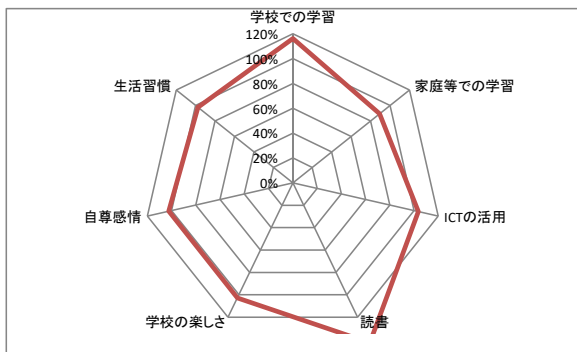
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・物語を読んで、登場人物の行動や気持ち、相互関係などを叙述や描写を基に捉えることや、人物像や物語の全体像を具体的に想像することに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・文章全体の構成や書き表し方などの着目して文章を整えたり、自分の文章のよいところを見付ける問題の正答率が全国平均より高い。	
	努力が必要な問題	・物語を読んで、登場人物の行動や気持ち、相互関係などを捉える問題の正答率が全国平均より低い。	

算数	全体的な傾向や特徴など	・「数と計算」や「図形」に関する問題の正答率が高く、目的に合った数量の処理の仕方や図形のかき方の理解が高い。 ・「変化と関係」や「データの活用」に関する問題の正答率が低く、割合や目的に応じたデータの読み取りに課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題の正答率が全国平均より高い。 ・示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、作図できる図形を判断する問題の正答率が全国平均より高い。	
	努力が必要な問題	・示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを求める問題の正答率が全国平均より低い。 ・分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉えて考察する問題の正答率が全国平均より低い。	

理科	全体的な傾向や特徴など	・「地球」を柱とする領域の正答率がやや高く、天気と気温の変化についての理解が高い。 ・「エネルギー」「粒子」「生命」を柱とする領域の正答率がやや低く、光の性質に関する問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ問題の正答率が全国平均より高い。	
	努力が必要な問題	・自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつ問題の正答率が全国平均より低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・「読書が好き」の肯定的な回答が全国平均より10Pと高く、読書の時間や新聞を読む回数も非常に多く、読書に親しんでいることがうかがえる。	
・学校での学習に関する肯定的な回答が多く、自分の考える活動や文章で表現する活動、話し合い活動や課題解決学習など、いずれも全国平均を大幅に上回っている。	
・家庭等での学習において、自分で計画を立てて学習している児童は全国平均より多いが、家庭学習の時間は全国平均より少ない。	
・その他の項目については、ほぼ全国平均である。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<p>○学力向上のための授業の質的向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各担任が、学習指導の過程に書く活動を意図的・計画的に設定することで、児童相互で考えを伝え合ったり、高め合ったりする話し合いを進めるといふ、問題解決的な学習活動を継続して実施する。 ・学習のまとめや振り返りの場面に「書く活動」を位置付け、児童自身が1時間の学習をまとめ、考えの変化や自身の成長を実感できる学習活動を継続して実施する。 ・児童が主体的に学習に参加する場面を創出し、学びの充実感を繰り返し味わうことで、より積極的、意欲的に児童が学習に取り組む授業づくりを行い実践していく。 <p>○学力向上のための特設時間の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の裁量時間で、全校一斉に帯取りの「鴨生田タイム」を設定して取り組む。(水～金曜日) ・朝の読書タイムや音読タイムを全校一斉で取り組む。(月・火曜日) <p>○ICTを活用した授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGA端末を活用した話し合い活動や表現活動の指導法の研修を実施し、授業への活用を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>○家庭学習への働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりや学年・学級通信で、家庭学習の重要性について、児童だけでなく保護者にも啓発していく。 ・国語科(漢字・音読等)及び算数科(復習・計算等)について、学年の実態に応じた家庭学習の量(10分×学年+10分)を、毎日継続して実施する。また、提出状況を確認し、課題をきちんと終わらせる習慣を身に付けていく。 <p>○自主学習の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の推奨と内容の質的向上を図る。(GIGA端末によるドリルアプリの活用・復習等) ・自主学習のよい取組を紹介するなど、児童の実践意欲を高める評価の工夫を行う。 <p>○生活習慣等に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鴨生田小スタンダード」に基づいた、生活指導及び学習指導の徹底を図る。 ・「二島中学校区 みんなの約束」についての共通理解を図り、中学校を見通した指導を行う。
